

第1回部会の発言メモ

生きる力を育てる子どもの居場所の機能充実 ～自立した若者の育成のために～

困難を有する若者(家に閉じこもっている若者、仕事を持ちえない若者)になる以前に、子どもの状況の中で、居場所を充分機能することが、予防的措置になるのではないかな？

1 新宿区の子どもたちに対する行政的な関わり

説明	児童館・学童クラブ	説明	放課後子どもひろば
具体的法律(児童福祉法、区条例)に基づいた展開		国要綱を受けた区要綱で実施	
目的	児童館…健全な遊びを与えて健康を増進し、情操を豊かにすること。 学童クラブ…保護者が就労等により昼間いない児童に遊びと生活の場を与えて、児童の健全な育成	目的	遊びによる子どもたちの身体能力やコミュニケーション能力の育成と、学習の機会を提供することによって学ぶ意欲を育む。また、地域交流の推進を図る。
対象	児童館…0歳から18歳未満の児童とその保護者 学童クラブ…小学校1年生から3年生までの児童(保護者が就労等により昼間家庭にいない子。配慮を要する子は小学校6年生まで)。	対象	小学校1年生から6年生までの区内の全ての小学生。
内容	児童館…子どもの指導、行事その他、健全な育成や相談。 学童クラブ…遊びと生活の場の提供、遊びを通じた集団	内容	指導的要素はやや薄い。 自主的な遊びの支援、自主的な学びの支援
職員配置	児童福祉施設の設備及び運営に関する基準によって、資格要件(保育士、社会福祉士等)が厳格に定められている。	職員配置	特に要件はなく、区要綱で、スタッフのうち1名は資格を有するほうが望ましいと定めている。

**意見**

- 児童館は、計画の中の具体的ないろんな行事等で活動を指導していく。そこに関わるには資格が必要。
- 放課後子どもひろばは、各館によって、どこまで遊んでる状態に応援したり、しかったりしているのか。任されている分あいまいになっているところがある。
- 放課後子どもひろばは、安全を見守ることが視点。
- 放課後子どもひろばは、学校の放課後をそのまま利用しているので、学校が終わった後、児童館まで歩いていくよりは、引き続き学校の中なので安全が確保されている。
- 放課後子どもひろばは、子どもたちの自主的な遊びを、安全を重視して、どう展開できるかという見守り。指導になってしまうと児童館とどう違うかということになる。見直しの余地があるのでは？

2 子どもたちとの関わり視点

1 子ども視点に立った時の、子どもは何をそこで求めて、そこにそうすることによって何が得られるか

①異年齢、異世代というような子どもたちの関わりを「居場所」の中でどう展開し、どのような援助

・社会は異年齢集団という状況。遊びを通して子どもの生きる力、社会的な適応能力をいかに高めるかに繋がる。

②障害をもった子どもたちとの関わりも含めて、異年齢、異世代、あるいは多様な人々との関わりを「居場所」で機能化していくことが意義あるのではないかな

・各地域の特色を十分に踏まえて、多世代多文化といった視点を十分に取り入れることが、新宿区における子どもの生きる力のコミュニティ形成となる

命の大切さを学びとっていけるような遊び  
↑↓  
バーチャルというデジタルの問題 → 一人遊び

②-2 異文化とかいろんななかかわりはプラスだが、階層性がないだろうか、関わりを異文化の状況下でどのように保障していくかという視点

2 大人、行政、あるいは組織がどのように子どもの安全を確保できるかという観点の話

学校は安全な場であったはずだったが、池田小学校の事件後、地域に開くのが学校の機能、使命だ、ということから、誰かが、大人がきちんと見守ってな

地域の子どもたちに対して、居場所、遊び場としての学校はあるべき。

行政は、管理責任者として誰が来て誰が帰ったか、把握する必要があるので登録制にしている。

3 遊びとは？

○大人の功罪  
・あまりにも大人が、子どもにとって、よかれと思うことをやりすぎてきた。  
居場所が必要 → 子どもにとって居心地のいい場所を作る  
居場所の中で遊びが必要 → いろいろ指導員つけての遊びの場を作る等  
↓  
大人が用意したもの(遊びについての固定的イメージ) = 自然発生的でない仮想空間  
○子どもたちが自由に行きたいところに行って遊んでという社会でなくなった

子どもの生活にとっては、生活が遊びそのもの

居場所はなぜ必要か。子どもにとって、今必要なものは何か？

4 検討の焦点化

放課後子どもひろばには、議論・検討する余地が残っている。

原点のところでの視点をさぐる

・元気で集団遊びもできて、いろんなことができる子  
・いじめにあつて不登校になってひきこもりがちなような子  
・発達障害の可能性ある子等  
・親が子に無関心、放任されている子

国；子ども・子育てビジョン  
社会全体で子育てを支える

5 委員からのその他意見

**親** 放任主義な親、身勝手に、学校へ行かせて、放課後も任せきりで、子どもを放任している親が多くなっている。

**先生** 子どもたちのありのままの姿をつかんで、一緒に何とかしようと思っている先生もいる一方で、子どもが一生懸命こうしたいということもぶつけても、全く反応しない先生も多くなる。

**メディア** いじめなどで偏った扱い方。本当にいじめの実態は何なのか。本質的なものは一体何なのかを誰もみようとしていない。